

第2章 現状と課題

2-1. 小郡市の特性

(1) 位置・地形

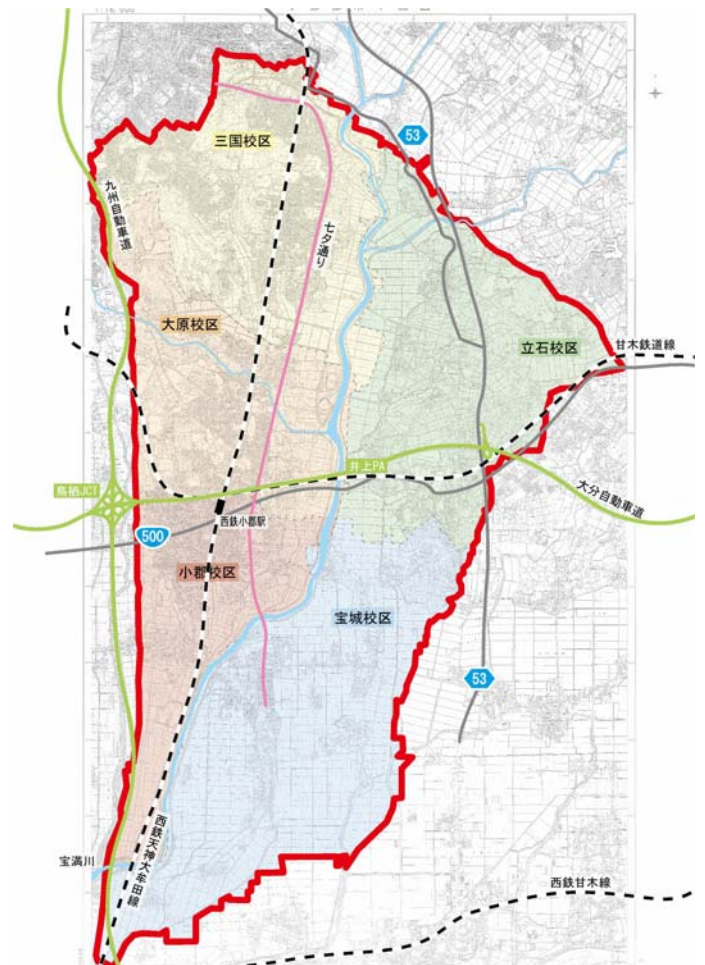
本市は、昭和30年に小郡町、三国村、立石村、御原村、味坂村の1町4村が合併し、新生小郡町となり、その後、人口増加に伴い昭和47年に市政を施行しました。

市域は、福岡県の南部、筑紫平野の北、佐賀県との県境に位置し、南東を大刀洗町、久留米市に、西は佐賀県、北東は筑紫野市、筑前町にそれぞれ接している東西6km、南北12kmにわたる区域です。

総面積は、4,550haで、全域が都市計画区域に指定されており、可住地面積は3,564ha、非可住地面積が985.5haで、その内、市街化区域が776.1ha、農地面積が2,256.3haとなっています。市域は筑後川と宝満川が合流するデルタ地帯に位置し、東北の台地には標高130.6mの花立山があり、西北丘陵地帯では住宅開発が進み新たな住宅街が出現しています。

また、市の中央部を南北に貫流する宝満川を挟んで、西側に住宅地、東側に田園地帯が広がっています。

交通は、鉄道が2線あり、南北に走る西鉄天神大牟田線と東西に横断する甘木鉄道があります。高速道路は、市の西端を縦断する九州自動車道と、鳥栖インターチェンジでクロスし、市域を横断している大分自動車道があります。また、国道500号が甘木鉄道や大分自動車道と併走するように、市域を横断しています。



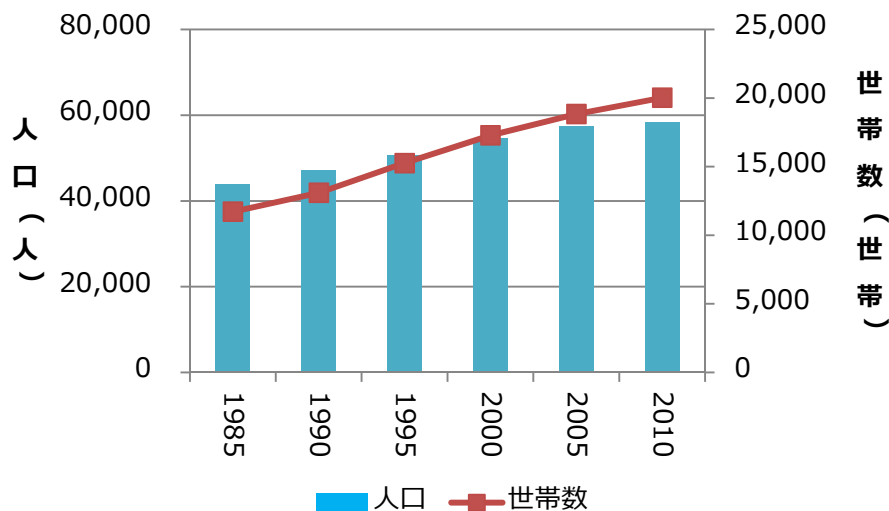
(2) 人口・世帯

小郡市の人口は微増傾向にあります。また、世帯数についても増加しています。

また、年齢3区分別の人口の傾向を見ると、0-14歳の世代が1985年をピークに増減を繰り返しながら全体的に減少している一方、65歳以上の人口は1985年以降増加しており、少子高齢化が進行していることが分かります。

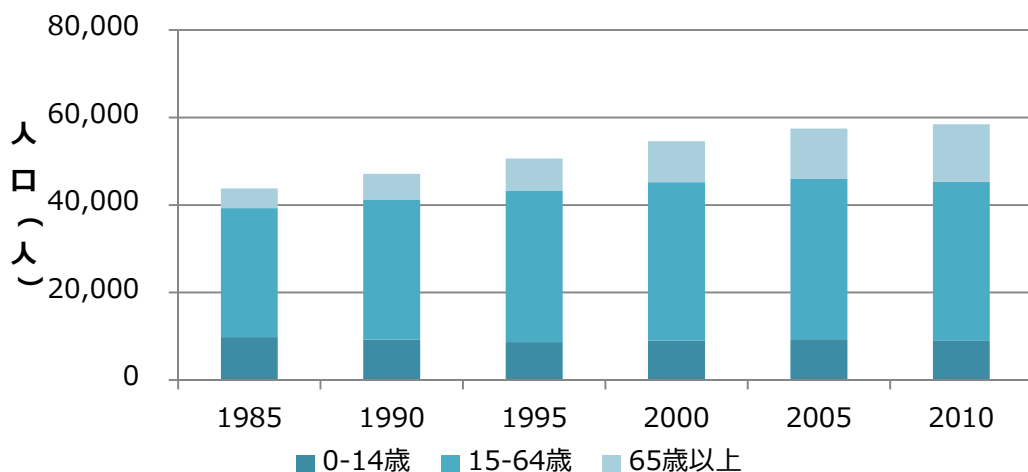
▼ 人口・世帯数データ (出典：国勢調査)

年(5年毎)	1985	1990	1995	2000	2005	2010
人口(人)	43,811	47,116	50,612	54,583	57,481	58,499
世帯数(世帯)	11,717	13,093	15,258	17,281	18,831	20,024



▼ 年齢別人口データ (出典：国勢調査)

年齢別(人)	1985	1990	1995	2000	2005	2010
0-14歳	9,816	9,214	8,682	9,032	9,341	9,094
15-64歳	29,483	32,040	34,523	36,187	36,732	36,205
65歳以上	4,504	5,851	7,407	9,356	11,406	13,162
高齢化率	10%	12%	15%	17%	20%	22%



(3) スポーツ施設の概要

本計画の対象となる小郡市内のスポーツ施設の概要を以下に示します。小郡市体育館、小郡市勤労青少年体育センター（武道場）、小郡市弓道場については、建設から約40年経過しており、老朽化が進行していることや、武道場及び弓道場は耐震改修工事を行っていないことから新耐震基準（昭和56年改正）に適合していないことが分かります。特に、小郡市体育館については、建設当時児童体育館として建設された経緯があり、天井高が低いなど競技基準に適合していないことが指摘されています。

また、スポーツ施設の配置状況（次頁）を見ると、多くの施設が市の中央部に位置していますが、小・中学校の屋内運動場や屋外運動場が社会体育に開放されており、中央部以外の身近なスポーツ施設として機能していることが分かります。

▼ スポーツ施設の一覧

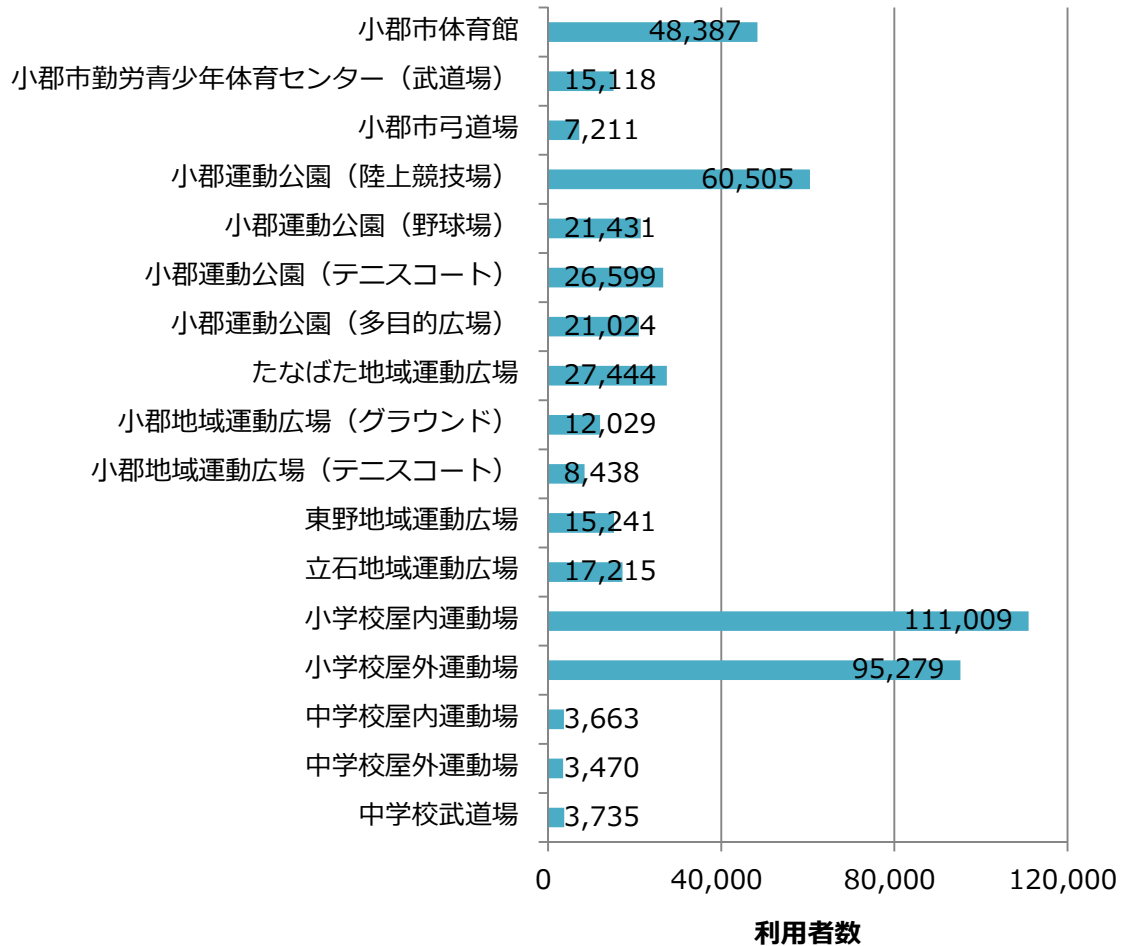
	施設名	建設 年次	経過 年数	建築 構造	耐震 基準
市 施 設	小郡市体育館	1974	40	RC造	耐震補強済み
	小郡市勤労青少年体育センター（武道場）	1975	39	RC造	不可
	小郡市弓道場	1976	38	木造	不可
	小郡運動公園（陸上競技場）	1994	20	RC造	可
	小郡運動公園（野球場）	1994	20	RC造	可
	小郡運動公園（テニスコート）	1994	20	-	-
	小郡運動公園（多目的広場）	1994	20	-	-
	小郡運動公園（アスレチック広場）	1994	20	-	-
	小郡運動公園（ジョギングコース）	1994	20	-	-
	たなばた地域運動広場	1994	20	-	-
	小郡地域運動広場	1984	30	-	-
	東野地域運動広場	1992	22	-	-
	立石地域運動広場	1994	20	-	-
	小・中学校屋内・屋外運動場	-	-	-	-
民 間 施 設	ブリヂストンスイミングスクール小郡	-	-	-	-
	小郡スイミングスクール 三国校	-	-	-	-
	小郡スイミングスクール 小郡校	-	-	-	-
	楽之館剣道場	-	-	-	-

▼ スポーツ施設の位置図



また、市の運動施設の利用者数（平成 24 年度資料）を見ると、小郡市体育館及び小郡運動公園の利用者数が多く、年間約 5 万人の人が利用しています。また、小・中学校の屋内・屋外運動場についても利用者が多く、特に小学校の屋内・屋外運動場の利用が多いことが分かります。

▼ 各施設の利用者数（平成 24 年度）



(4) スポーツ事業の概要

小郡市で実施されているスポーツ事業の概要を以下に整理します。

▼ スポーツ事業一覧

事業の分類	事業名	開催時期	開催場所
市民を対象とした事業	公民館対抗バレーボール大会	4月	小郡市体育館
	フェスティバル小郡 市民スポーツ大会	5～10月	各施設
	スポーツレクリエーション大会	9月	小郡市体育館
	市民ふれあい運動会	10月	陸上競技場
	成人祭祝賀駅伝大会	1月	市内、運動公園
	小郡ロードレース大会	3月	市内
子どもを対象とした事業	ジュニアスポーツフェスティバル	4月	小郡市体育館他
	ライジング福岡によるバスケットボールクリニック	7月	市内小学校体育館
	グリーンパークみんなであそぼう！ in おごおり	11月	陸上競技場
	福岡ソフトバンクホークスによる野球教室	12月	野球場
	福岡ソフトバンクホークス	12月	野球場
	帆足和幸選手によるふれあい教室		
	サガン鳥栖サッカー教室 in おごおり	3月	陸上競技場
就学前の親子を対象とした事業	かるがも教室	年20回	小郡市体育館
	春休み・夏休み・冬休み親子チャレンジ教室	年3回	-
観戦型事業	ウエスタン・リーグ公式戦	-	野球場

※上記事業風景を32ページおよび34ページに掲載しています。

2-2. スポーツに関する状況

(1) 公共スポーツ施設の現況調査結果

■ 結果の概要

各スポーツ施設の現況調査結果の概要を以下に示します。

【小郡市体育館】

- ・ 建設から40年経過しており、建物全体が経年劣化により老朽化している
- ・ 外壁にはクラックが多数あり、また塗装の剥がれ、外壁の浮きなどが見られる
- ・ 建物の周囲が沈下しており、外部舗装部分に隙間が見られる
- ・ 駐車場等からのバリアフリーについては、スロープが建物の内外に確保されているものの、廊下に階段があるなど完全とは言えない
- ・ 樋や設備配管等についても劣化しており、漏水の原因となっている
- ・ 屋根部については屋上防水が劣化している
- ・ 体育館フロアについては床面の水平は保たれているが、随所に補修のあとが見られる
- ・ 建具のコーキングなど劣化が進行している
- ・ 建物内部の壁面にクラックが多数発生しており、そこからの漏水も見られる
- ・ 体育館フロアは十分な広さが確保されておらず、競技ニーズに対応できていない
- ・ 体育館フロアの天井高さは8.25mであり、バレーボールの基準として用いられている12.5mと比較すると低い



【小郡市勤労青少年体育センター（武道場）】

- ・ 建設から39年経過しており、建物全体が経年劣化により老朽化している
- ・ 卓球場や武道場の内部にクラックが発生している
- ・ 天井や壁から漏水している箇所が随所に見られる
- ・ 外壁にもクラックが発生し、タイルが浮いているなど劣化が進行している



【小郡市弓道場】

- ・ 建設から 38 年経過しており、外壁にクラックや的場屋根鉄骨にサビが発生しているなど経年劣化が進行している
- ・ 甘木鉄道の高架化に伴い、一部減築しており、射場面積が狭くなっている



【小郡運動公園陸上競技場】

- ・ 建設から 20 年経過しており、外壁等にクラックがあるなど建物の経年劣化が進行している



【小郡運動公園野球場】

- ・ 建設から 20 年経過しており、外壁等にクラックがあるなど建物の経年劣化が進行している
- ・ 外野盛土スタンドの擁壁に一部ずれや破断が発生している
- ・ 外野盛土スタンドの擁壁の水抜き穴が塞がれている



■ 結果を踏まえた課題の抽出

- ・ 全体的に経年劣化が進行しており、特に小郡市体育館、小郡市勤労青少年体育センター（武道場）、弓道場の劣化が著しく、建築躯体の更新が望まれます。
- ・ 小郡市体育館の体育室については、建設当時の位置付けが児童体育館であり、ステージが設置されているなど、屋内スポーツの拠点として屋内スポーツの競技基準に適合しておらず、屋内スポーツの推進を踏まえると機能が不足しており、機能向上を図る必要があります。
- ・ 小郡市体育館のバリアフリー等の機能面を見ても、駐車場から体育室までスロープが設置され、車いすやベビーカー等への配慮がされていますが、施設全体で見ると不備もあり、バリアフリー化・ユニバーサルデザイン化を推進する必要があります。

(2) 市民アンケート調査**■ 調査概要**

調査期間	平成 26 年 9 月 25 日～10 月 15 日
調査対象	市内にお住まいの 15 歳以上の男女
調査区域	小郡市内全域
配布回収	郵送による配布 2,000 通および施設利用者による
回 答	無記名方式
抽出方法	男女別・年齢別・地域別比率による無作為抽出
回 収 率	37.8% (無作為抽出分のみ)

■ 結果の概要

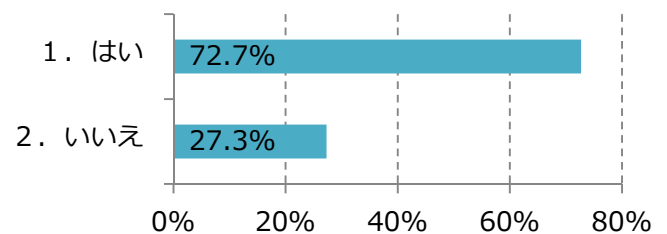
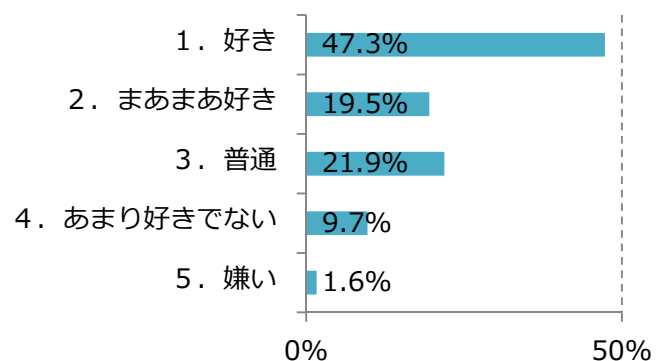
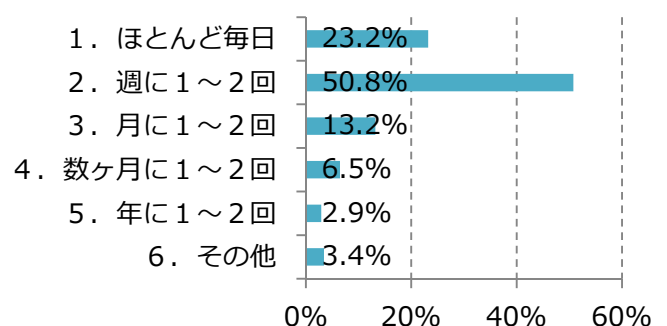
市民に対するアンケート調査結果の概要を以下に示します。アンケート調査の全ての結果は、参考資料を参照ください。

【スポーツとの関係に関する傾向】

1 年間のうち何らかのスポーツ・運動を行ったと回答した人やスポーツの観戦に対して好意的な印象を持っている割合が 7 割を超えており、全体的にスポーツ・運動に対して好意的な感情を持っていることが分かりました。また、内閣府の「体力・スポーツに関する世論調査（平成 21 年 9 月）」によると、週 1 回以上運動・スポーツを行う成人の割合は 45.3% となっていますが、小郡市では、「ほとんど毎日」「週に 1～2 回」スポーツを行っているという回答した人が全回答者のうち 5 割を超えており、全国平均より高くなっています。

【スポーツ・運動を行っている人の傾向】

過去 1 年間で運動、スポーツを行った人は、前述したように「週に 1～2 回」や「ほとんど毎日」の頻度でスポーツを行っており、日常的にスポーツに慣れ親しんでいることが分かります。また、スポーツ・運動を行う時は、「クラブや同好会の仲間」と一緒に行うことが最も多いという結果ですが、「一人」

問 この 1 年間スポーツ・運動をしたか？**問 スポーツは好きか？****問 スポーツを行った頻度**

でスポーツを行っている人も多くおり、活動している場所もウォーキングやジョギングをする人たちは「道路」を使用し、また「公園・広場」など専門的なスポーツ施設だけでなく、日常生活の中で様々なスポーツ・運動を行っていることが分かります。

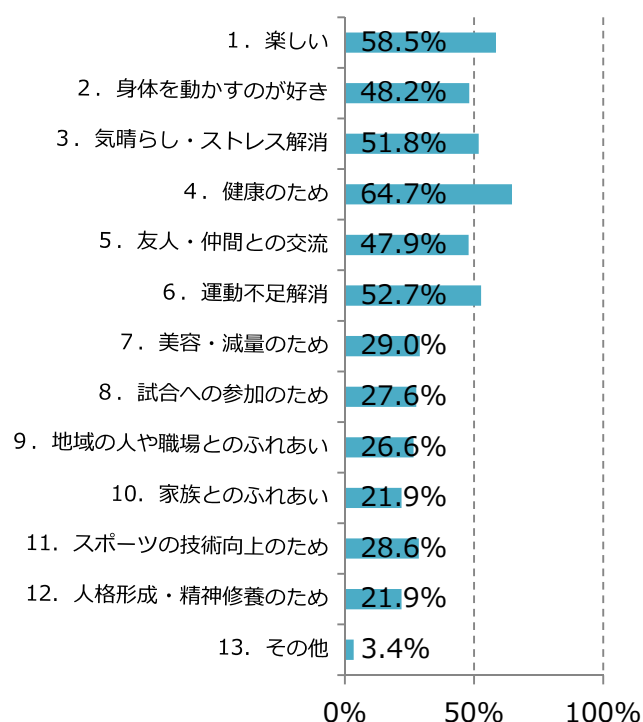
スポーツ・運動を行っている理由は、「健康のため」や「運動不足解消」等の健康に対する意識によるものが多く、また、「楽しい」「気晴らし・ストレス解消」など余暇活動として運動やスポーツを行っている人も多いことが分かります。

【スポーツ・運動を行っていない人の傾向】

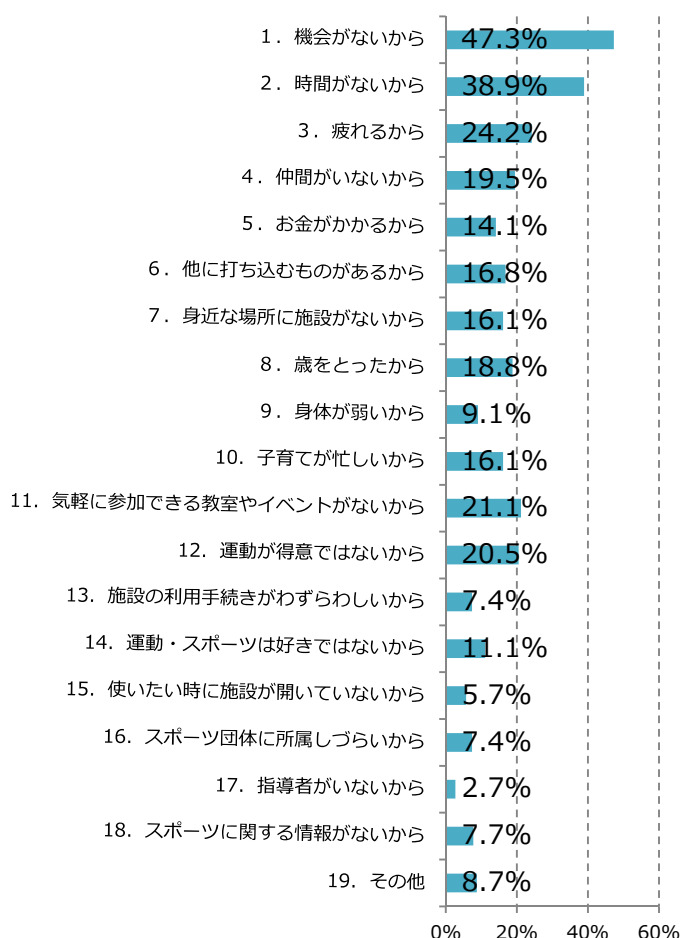
スポーツ・運動を行っていない理由は、「機会がないから」が最も多く、次いで「時間がないから」が多くなっており、スポーツ・運動に対する意識はあるが、きっかけが少ないなどの要因で、運動・スポーツを行っていないことが考えられます。また、行いたいスポーツは、「ウォーキング」や「エアロビクス、エクササイズ等」が多くなっており、気軽なスポーツ・運動から始めることを望んでおり、またこれらのスポーツが健康増進に寄与することも関係していると考えられます。スポーツ・運動を行うきっかけは、「自分の意欲を高める」が最も多くなっており、「家族や友人からの誘い」が次いで高くなっています。

以上のことを踏まえると、スポーツ・運動を行うきっかけを提供することでスポーツを行う可能性がある人が多いことが考えられます。

問 スポーツ等を行った理由



問 スポーツ等を行わない理由

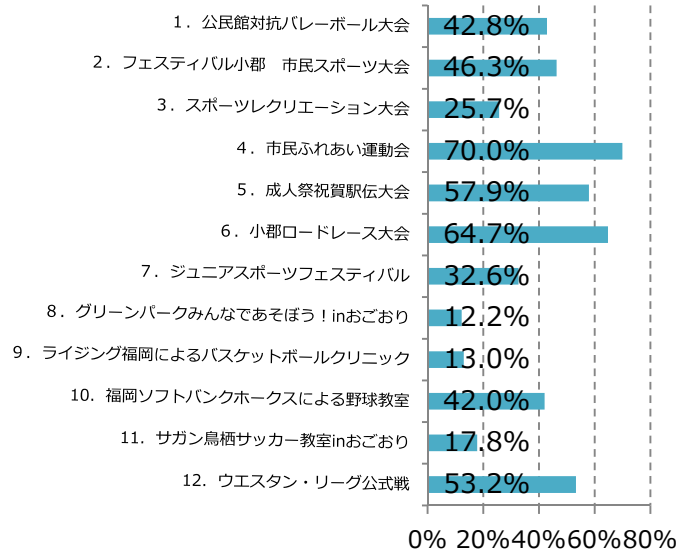


【市が実施しているスポーツ事業に関する傾向】

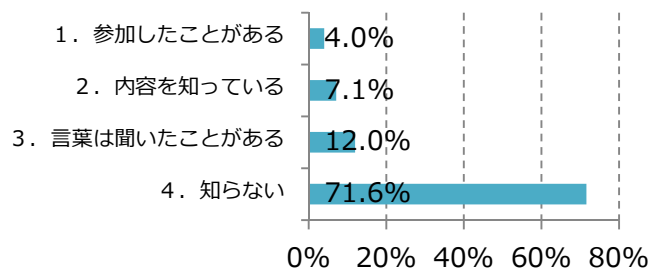
市が主催したスポーツイベントの認知度については、「市民ふれあい運動会」が最も多く、7割の人が知っていることが分かりました。また、「小郡ロードレース大会」や「成人祭祝賀駅伝大会」についても認知度が比較的高い傾向にありました。スポーツイベントの満足度を見ると、全体的に不満という意見は少なく、最も満足度が高いのは、「フェスティバル小郡 市民スポーツ大会」であり、次いで「ウエスタン・リーグ公式戦」が高いという結果でした。参加しなかった理由を見ると、「知らなかったから」が最も多く、また、小郡市の総合型地域スポーツクラブである小郡わいわいクラブの認知度及び参加状況はともに低い結果となり、市が実践しているスポーツ事業の周知活動及び内容の見直しをさらに推進する必要があると考えられます。

市民が考える市のスポーツ推進に必要なことは「スポーツ施設の整備・充実」が最も多く、5割以上の方が回答しています。また、「中高年者のスポーツ活動の推進」も多く、今後の少子高齢化社会を見据えた対応が必要であるとの考えであると思われます。

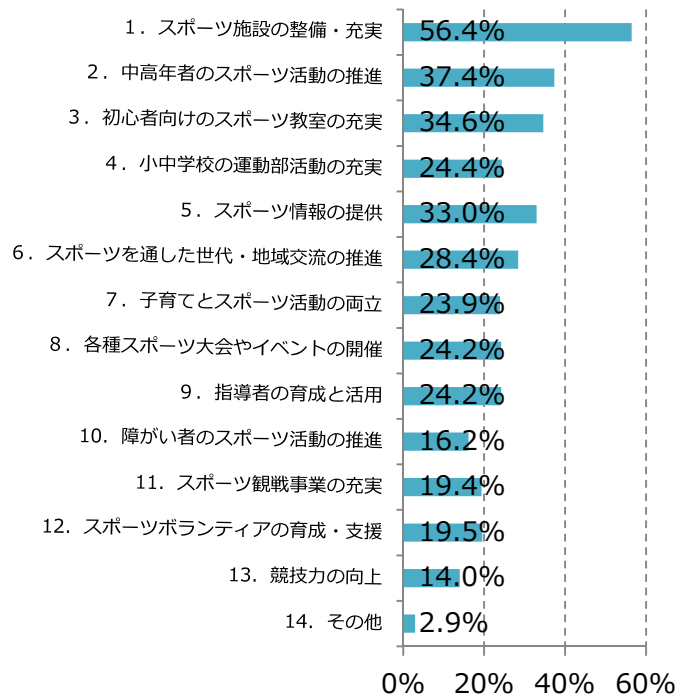
問 スポーツ事業の認知度



問 小郡わいわいクラブの認知度



問 市のスポーツ推進に必要なこと



【スポーツ施設に関する傾向】

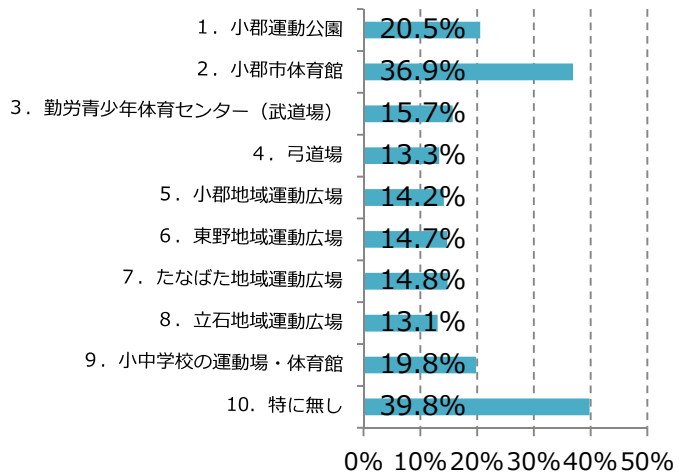
施設の利用度を見ると、「小郡運動公園」が最も多く利用されており、次いで「小郡市体育館」の利用状況も高くなっています。また、小・中学校体育施設の利用も多く、各地域スポーツの核となる施設として、利用されている現状が考えられます。

施設の満足度は、「小郡運動公園」が最も高く、満足度が低い施設は「弓道場」「勤労青少年体育センター（武道場）」

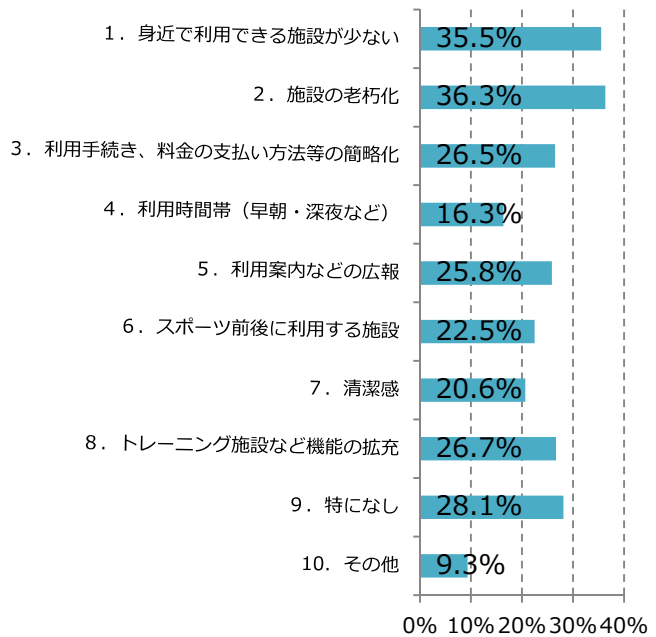
「小郡市体育館」でした。また、改修・整備が必要なスポーツ施設でも「小郡市体育館」について最も意見が挙げられており、具体的には施設全体の老朽化に対する意見が多くありました。

以上のことを踏まえると、利用度の高い小郡市体育館の改修・整備が大きな課題として浮かび上がります。

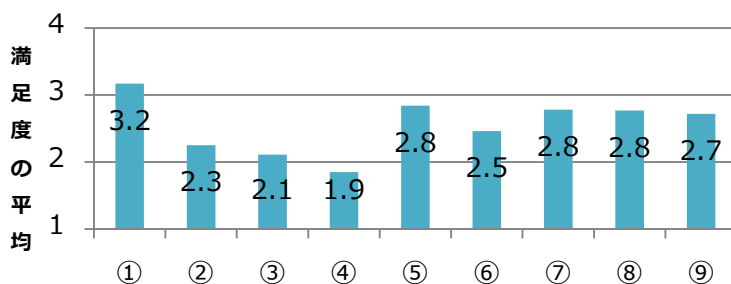
問 改修等が必要と思う施設



問 スポーツ施設に対する不満



問 各施設の満足度



- ①小郡運動公園
- ②小郡市体育館
- ③勤労青少年体育センター（武道場）
- ④弓道場
- ⑤小郡地域運動広場
- ⑥東野地域運動広場
- ⑦たなばた地域運動広場
- ⑧立石地域運動広場
- ⑨小中学校体育施設（体育館、運動場）

※満足度は「満足」を4点、「やや満足」を3点、「やや不満」を2点、「不満」を1点として集計し、点数が高いほど満足度が高くなっています。

■ 結果を踏まえた課題の抽出

市民に対するアンケート調査結果を踏まえた小郡市のスポーツ推進における課題を以下のよう
に整理します。

- ・ スポーツ・運動全般については、関心がある人が多く活動状況は高い。一方で、スポーツ・運動を行っていない人に対しては気軽に運動を行うきっかけを提供することで、市全体のスポーツ人口を底上げする必要があります。
- ・ スポーツ事業については、認知度にバラつきがあり、周知活動や競技種目を見直すことで参加者を増加させる必要があります。
- ・ スポーツ施設については、小郡市体育館をはじめとして、各施設が老朽化していることや大きな大会を実施した場合に観覧するスペースや更衣室の規模が小さいこと等が大きな問題となっており、改修・整備について今後の方針を検討する必要があります。
- ・ 小・中学校の体育施設の利用も多く、中央部に集中しているスポーツ施設を補完する役割を持つこれらの施設について、スポーツを行う場所の提供という観点から改めて位置づける必要があります。
- ・ 総合型地域スポーツクラブ「小郡わいわいクラブ」に対する認知度は低く、認知度向上及び参加を促すための施策を検討する必要があります。

(3) 小・中学生アンケート調査

■ 調査概要

調査期間	平成 26 年 10 月 1 日～10 月 9 日
調査対象	市内の小学 5 年生 620 人、及び中学 2 年生 670 人
調査区域	小郡市内公立小・中学校
配布回収	学校での直接配布、回収
回 答	無記名方式
回 収 率	小学生 96.1%、中学生 90.9%

■ 結果の概要

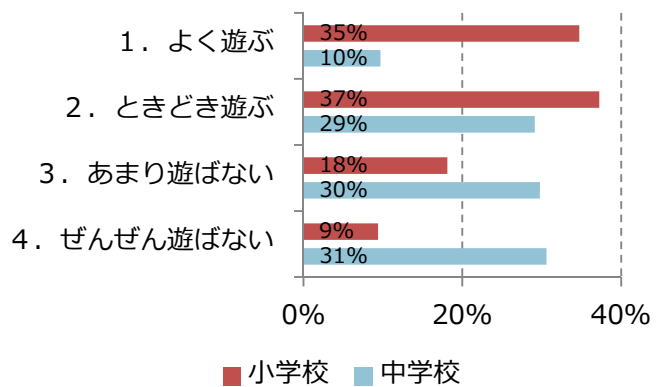
小・中学生に対するアンケート調査結果の概要を以下に示します。アンケート調査の全ての結果は、参考資料を参照ください。

【スポーツとの関係に関する傾向】

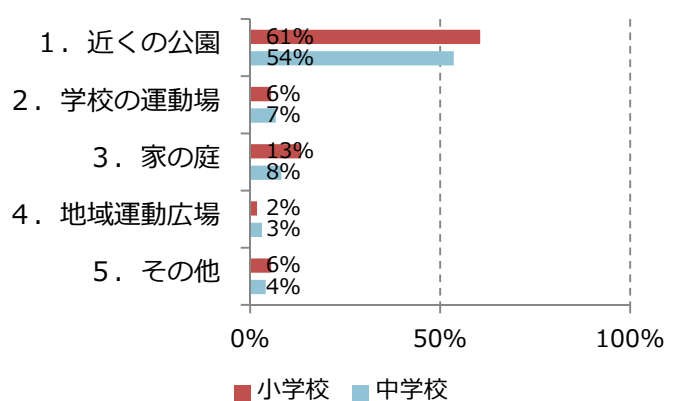
小学生では 70%を越える児童が外で遊んでいますが、中学生では 40%程度と外で遊ぶ割合が低くなっています。遊ぶ場所としては、小・中学生ともに「近くの公園」が最も多くなっている一方で、「学校の運動場」を利用して遊ぶ子どもは少ないことがわかります。また、テレビ・ゲーム・インターネット等を利用する時間は、概ね 1 時間～3 時間程度で、小学生の平均が 2.2 時間、中学生での平均が 2.1 時間となっています。その中で、スポーツをテレビで見るとの回答はともに 6 割を超えており、スポーツに対する興味が高いことがわかります。しかし、スポーツ以外の習い事をしている子どもも多いことがわかりました。

スポーツ・運動の頻度について見ると、小学生は日常的に行っている割合が 8 割を超えており、中学生は「ほぼ毎日」スポーツ・運動をしている割合が 64%となり、小・中学生ともに日常的にスポーツに慣れ親しんでいる現状がわかります。

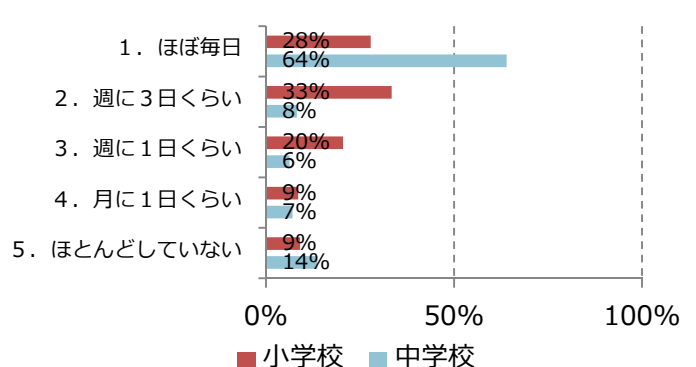
問 外で遊ぶか？



問 どこで遊ぶか？



問 スポーツ等の頻度



【スポーツ・運動を行っている子どもの傾向】

小学生はスポーツクラブや教室で運動やスポーツをしている割合が多く、中学生は部活動で運動やスポーツを行っている割合が最も多くなり、何かしらの団体に所属しながらスポーツ・運動を行っていることが分かります。

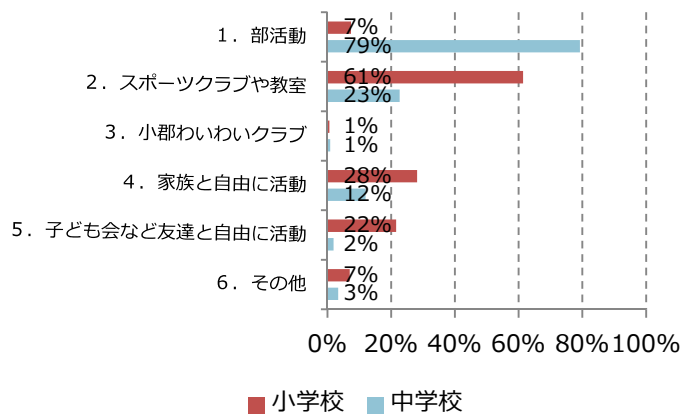
行っている運動やスポーツの内容は、小・中学生で、差異が見受けられ、小学生は水泳、サッカー、キャッチボールが多くなっており、中学生は、突出して多い運動やスポーツがないということが分かりました。

また、小学生、中学生ともに運動やスポーツに満足しているとの回答が多く、どちらも8割を超えています。満足していない理由を見ると、「活動時間が短い」「指導者がこわい」「練習が楽しくない」といった意見が多く挙げられています。

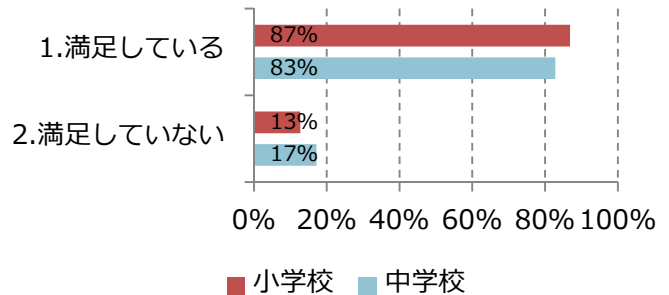
【スポーツ・運動を行っていない子どもの傾向】

運動やスポーツをしていない子どものうち、スポーツをしたいと考えているのは小学生が41%、中学生が32%となり、運動やスポーツをしない理由として最も多く挙げられていたのは、小・中学生ともに「あまり好きじゃない」であり、スポーツ・運動に対する意識が低いことが分かりました。また、中学生では、「勉強や塾でいそがしい」の回答も多くなっており、スポーツを行う機会が少ないことが分かります。

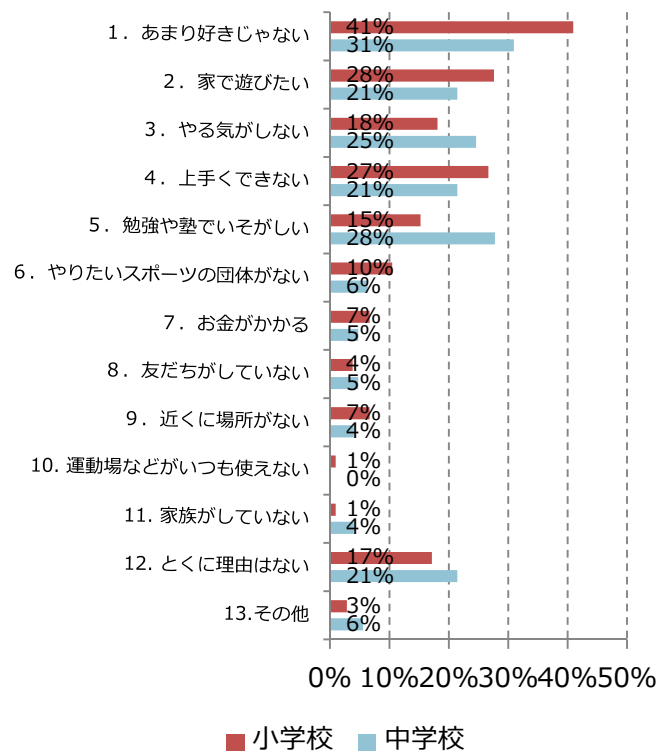
問 どのようにスポーツ等をしているか？



問 スポーツ等の活動に満足しているか？



問 スポーツ等を行っていない理由



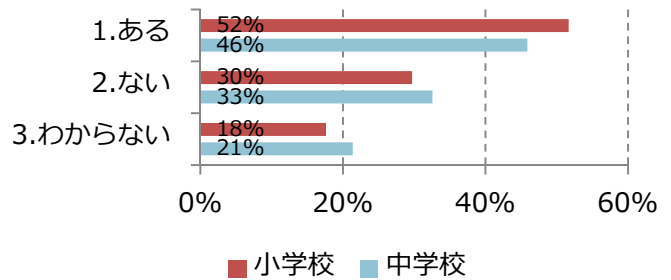
【市が実施しているスポーツ事業に関する傾向】

小郡市の各スポーツイベントに参加したことがある人が多く、小学生が52%、中学生が46%となり、最も多かったのは「市民ふれあい運動会」という結果となりました。しかし、参加率で見ると小学生が25%、中学生が23%であり、全体的に見ると参加率が低いことが分かります。

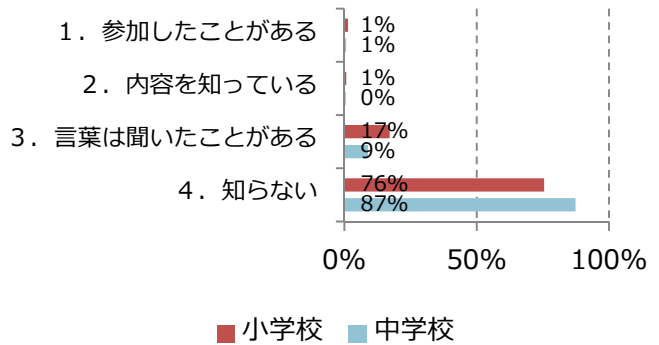
参加したスポーツイベントの満足度は、総じて高く、参加したイベントに対しては好意的に受け取っていることが分かります。

また、小郡市の総合型地域スポーツクラブである小郡わいわいクラブの認知度及び参加状況は小・中学生ともに低い結果となりました。

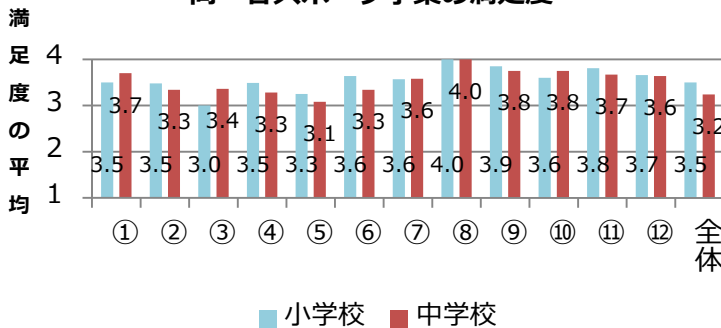
問 スポーツ事業の参加の有無



問 小郡わいわいクラブの認知度



問 各スポーツ事業の満足度



- ①公民館対抗バレーボール大会
- ②フェスティバル小郡 市民スポーツ大会
- ③スポーツレクリエーション大会
- ④市民ふれあい運動会
- ⑤成人祭祝賀駅伝大会
- ⑥小郡ロードレース大会
- ⑦ジュニアスポーツフェスティバル
- ⑧グリーンパークみんなであそぼう in おごおり
- ⑨ライジング福岡によるバスケットボールクリニック
- ⑩福岡ソフトバンクホークスによる野球教室
- ⑪サガン鳥栖サッカー教室 in おごおり
- ⑫ウエスタン・リーグ公式戦

※満足度は「満足」を4点、「やや満足」を3点、「やや不満」を2点、「不満」を1点として集計し、点数が高いほど満足度が高くなっています。

■ 結果を踏まえた課題の抽出

小・中学生に対するアンケート調査結果を踏まえた小郡市のスポーツ推進における課題を以下のように整理します。

- ・ スポーツや運動を行っている子どもは多いですが、更なる子ども世代のスポーツ推進を図るためにスポーツに対する興味を持ってもらう必要があります。
- ・ 市が実践しているスポーツ事業の参加率が低く、周知活動の強化を図ると同時に、内容の見直しなど、子どもの興味を引き出すための改善を行う必要があります。
- ・ 小・中学生についても総合型地域スポーツクラブ「小郡わいわいクラブ」に対する認知度は低く、認知度向上及び参加を促すための施策を検討する必要があります。

(4) 団体ヒアリング調査

■ 概要

調査日	平成26年10月26日、11月1日
調査対象	17団体
場所	小郡市野球場会議室
方法	直接面談

■ 結果の概要

スポーツ団体に対するヒアリング調査結果の概要を以下に示します。

【施設について】

施設については、老朽化や備品不足など各施設の問題点が出されましたが、特に小郡市体育館を利用している団体からの改善要望が多く、その内容は体育館施設の老朽化と規模が小さいという意見が多くありました。また、各競技でよく利用している場所があり、他競技との場所の競合などスポーツ活動を行う場所の不足についても意見が出されました。



【競技人口について】

競技人口については、減っているという団体が多くあり、特にジュニア世代のスポーツ人口が増えておらず、この世代の競技人口の確保及び育成が大きな課題という意見が多くありました。更に、人口減少・少子高齢化といった社会情勢を考慮するべきといった意見もありました。

また、競技人口を増やすための方策として、各団体でチラシ配布などの広報を実践していますが、大きな効果が得られておらず、市に情報発信のサポートを求める意見もありました。

■ 結果を踏まえた課題の抽出

スポーツ団体に対するヒアリング調査結果を踏まえた小郡市のスポーツ推進における課題を以下のように整理します。

- ・ ジュニア世代の育成に対して多く意見が挙げられ、小・中学生のスポーツ・運動をする環境を整える必要があります。
- ・ 指導者や大会運営補助などのスポーツボランティアが不足傾向にあり、増やすための体制の構築などの施策を検討する必要があります。
- ・ スポーツを行う場所についても、各団体が現状ある施設でやりくりをしていますが、不足傾向であり、スポーツや運動の土台となる施設整備が望まれています。

2-3. スポーツ推進に向けた課題

小郡市の特性やスポーツに関する状況を踏まえ、小郡市におけるスポーツ推進に向けた課題を人、活動、仕組み、施設の4つに分類し整理します。

■ 人に関する課題

スポーツ・運動に対するきっかけづくり

市民アンケート調査及び小・中学生アンケート調査結果より、スポーツ・運動を行っている割合は7割と多く、意識が高いことが伺えます。しかし、スポーツ・運動をしていない約3割の人々の運動をしない理由等を見ると、慣れ親しむためのきっかけを提供することが必要であり、まずは市民のスポーツ・運動に対する意識を向上させる必要があります。

少子高齢化に伴うスポーツ人口の減少への対応

本市の高齢化率は、県の平均と比較すると低い方ですが、年々高くなっており、今後も高齢化は進むと考えられます。このような中で、市民アンケートの結果にもスポーツ活動を盛んにするために必要なこととして、中高年者のスポーツ活動の推進が求められています。また、小・中学生がスポーツをする環境を整えることも必要とされています。子どもから高齢者までスポーツに取り組める環境づくりが必要となります。

■ 活動に関する課題

スポーツを行う目的の多様化への対応

近年、スポーツをする目的には身体機能の向上や健康づくりといった目的に加えて、地域コミュニティの形成や世代間交流といった社会的な目的も求められています。本市においても、健康づくり以外にも余暇活動としてスポーツ・運動を行っている人も多くいます。市民がスポーツに取り組む目的が多様化している中で、競技スポーツだけではなく、いつでもどこでも誰でも気軽にできるスポーツ・レクリエーション活動も同時に推進していくことが重要です。

将来を担う子どものスポーツ活動の低迷

本市における小・中学生のスポーツに対する意識は、高い傾向にあります。しかしながら、団体ヒアリング結果を見るとジュニア世代の育成が課題として挙げられています。生涯スポーツの基礎は少年期のスポーツへの関わり方と強く関連します。すべての子どもたちが充実したスポーツ活動に接することが出来る取り組みと支援が重要です。

■ 仕組みに関する課題**スポーツに関する情報発信の強化**

本市には総合型地域スポーツクラブ「小郡わいわいクラブ」がありますが、認知度及び参加率は高くなく活動内容もあまり知られていない状況となっており、本市が実施しているスポーツ事業についても認知度にバラつきがある状況です。また、各スポーツ団体は競技人口が伸び悩んでおり、各々で情報発信をしていますが、効果は芳しくない現状があります。したがって、スポーツを身近に感じ、参加するためのきっかけとして、イベントの周知や各団体の活動状況など、スポーツに関する情報発信を高める仕組みが必要です。

■ 施設に関する課題**スポーツ活動の場の老朽化と不足**

本市のスポーツ施設は、小郡運動公園が屋外競技スポーツの拠点として多くの人々に利用されています。しかし、屋内競技スポーツの拠点となるべき小郡市体育館は老朽化や規模の不足が問題として市民アンケート、団体ヒアリングにおいて挙げられています。また、市の中央部にスポーツ施設が集まっていることから、学校施設の活用ニーズも高く、特に屋内競技スポーツで利用されています。したがって、市全体におけるスポーツ活動の場の位置付けを再整理し、必要に応じてソフトとハードの両面から整備を進めていく必要があります。